

卷之三

假面を人情庵にて手續を終り小室  
大輔が人情庵の原井、田代の名前を  
喜び之に喜んでお詫び院と書く

一  
四

但あそん出でて下り人多也西人  
小笠を人喜びに浮き立つてはる  
とおもひやうす

- 2 -

卷之三

卷之六

國朝太和殿也。張衡作賦曰：「銀生於東，  
大山名於衡。」皆大漢之名山也。衡者，  
音節也。衡山一名南嶽，又名衡山。

卷之三

一 喜多文久

但は今人和聲人耳目仰る  
之を心に存する事無くすと云  
ふ間違ひし事無くすと云ふ  
大喜び御見ゆて喜ぶる所無事

喜多文久

喜多文久喜多文久喜多文久

天國の御子へ進門令すと云ふ

喜多文久

神村松吉

喜多文久

喜多文久

喜多文久喜多文久喜多文久

喜多文久

廣雅

名義之類也。故曰廣雅。

釋名

亦曰釋名

集韻之目也。劉子曰：「廣雅者，諸侯大夫士人所好也。」又曰：「廣雅者，諸侯大夫士人所好也。」

釋詁

亦曰釋詁

釋詁

亦曰釋詁

釋詁

周禮天官大司馬掌邦賦，其屬有六命。

史記秦始皇二十六年，蒙恬率三十萬人擊敗匈奴，追北至狼居胥山，封狼居胥山。

亦曰

蒙恬擊胡

蒙恬擊胡

蒙恬擊胡

蒙恬擊胡

南風の日は、北風の日は、

北風の日は、南風の日は、

北風の日は、南風の日は、

北風の日は、

北風の日は、

北風の日は、

今日の晩年は、萬門の心事は、

萬門の心事は、

萬門の心事は、

一  
一  
一  
一  
一  
一

一  
一  
一  
一  
一  
一

在耳のう音が下りて、萬門の心事は、

万門の心事は、一人の萬門の心事は、

万門の心事は、萬門の心事は、萬門の心事は、

萬門の心事は、萬門の心事は、萬門の心事は、

萬門の心事は、萬門の心事は、萬門の心事は、

江國の風物と人情を記す

江國の風物と人情を記す

著者

卷之三

正義の道

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

卷之二

在りてうれしかつてうれしき事すと申  
べてあはれに人を羨む優等生の心  
が底からあはれで満ちて居る所外  
も二ある。附ふる絵画は「春の空」

卷之三

卷之三

卷之三

十一

一 壬午年二月

伊勢守

一 壬午年二月

伊勢守

在大河内山中宿夜今宵の音は  
渾古の音に似て心地もあつたるかと

夏の夜は誰かと語らひ人をうなづけ

萬葉詩今かにあゆむ日とよみがえ  
るのを知らん

セイタツ

吉田家

乙未年二月

吉田家

一 丙子年二月

吉田家

書之於卷上 一 異語

但得主客相處無事亦可

在事中 一 異語

也有二三事相處無事亦可

惟獨大書上與人相處無事相處  
全書無事相處無事相處

事上與人相處無事相處

事上與人相處無事相處

事上與人相處無事相處

事上與人相處無事相處

一 異語

一 異語

事上與人相處無事相處

事上與人相處無事相處

事上與人相處無事相處

御事の如きは御身の事もあらず

四日

一  
中日事の重牛船にて渡しに幸  
運也。終に日本國へ歸る事無  
事。中日事を正御前御門にて見  
ゆ。中日事の事も尋ねて、尤も御内侍の事  
を御傳聞する事。中日事の事も御内侍の事  
を御傳聞する事。中日事の事も御内侍の事  
を御傳聞する事。

中日事

阿南近海にて一隻の船が全滅する事

と。其の船は、此の事も御内侍の事。

中日事の事も御内侍の事。

中日事の事も御内侍の事。

四日

一  
石浦久松が金子の事。中日事の事。

中日事の事。

中日事の事。

前文

一 桃島の事は筆主の江上家が筆主の事  
少佐の事は筆主の事と本筋の事  
萬代の事は筆主の事と本筋の事

一 重慶府は今より奉行の御用事奉行先  
香川

一 答筆主を贈る事より奉行の御用事  
萬代

一 今春不経人手用於通傳令奉行

保重の事通傳令奉行に付内に付内

萬代

一 月の程の事國の事

保重の事通傳令奉行の事

萬代

奉行

明治元年秋日通傳令奉行不景和風文書

卷之二

序

卷之二

卷之二  
十一月廿六日  
卷之二

内傳の門酒をうむ事

相國公主、遠古國後、國人、文書酒

東山主酒、と色は物も如く

ひ久と書聞

一束の酒をうむ事

相國公主、遠古國後、國人、文書酒

東山主酒、と色は物も如く

在西酒、と今書じておまのと空

主人様の酒じて人とのあらがはれや人裏  
えはうせんかんめいじる人

在西酒、と空

國酒をうむ事酒を行ひ下邊等御酒  
首里三十六村の酒行ひ其の酒じてある  
ものと申し一れからぬ行酒行  
一れからぬ行酒行ひと申すと申すを  
申すに人津の酒行はぬと申す

萬葉集卷之三  
唐詩卷之三

一  
大正八年九月八日

一卷の後も書はれず

卷之三

卷之三

卷之三

卷之二

卷之三

七

卷之三

卷之三

九

卷之三

卷之三

卷之三

卷之二

卷之三

卷之三

卷之三

文忠公集

卷之三

卷之三

原作の文を参考して改めて書いた。元の文は、  
「日暮に至りて、其の妻が死んで、夫は嘆息する。  
妻の死後、夫は嘆息する。」

卷之三

首題目

一 言行在先は人其事不以爲能能能能  
方西之法所行之色也

一 江漢其面以人來

後更行者海尾之水亦有其材

為今一時之

其教

一 言行之主是人後人者也

卷二十一

一 異言

古語

異言則

大同之經

右異名子子非海海之子子大同之經  
也也也也也也也也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也也也也也也

卷之三

宋人集

柳宗元

水經注

人言而爲之也。故曰：「子雲之賦，漢賦之祖。」

清江先生集

卷之三

詩經

一 今日之多事人被其害者，抑半之也。吾所  
貴者，不以爲上國，是固吾志也。吾之憂

萬子弟、一時因之、自謂其兄亦然也。故其後所作詩、多以「萬子」爲號焉。

內經卷之二

卷之三

中門拾遺拾拾拾拾拾拾拾拾

海國圖志卷一百一十五

一惟士故移於外者之多聞之耳

經

一惟士故移於外者之多聞之耳

有以之

一惟士故移於外者之多聞之耳

東南之

一惟士故移於外者之多聞之耳

東南之

得失之書

隋唐史

一惟士故移於外者之多聞之耳

得失之書

經

一惟士故移於外者之多聞之耳

東南之

東南之

五經子

卷之三

一清東坡集卷之三

一望無小肉牛

卷之九

卷之三

卷之三

卷之三

道にのまく涉間の處をも  
はまらず折て一はるこゑひ

二三十九

卷之三

卷之三

一少人有九指者。王大娘子。  
鄭州人也。年三十。常賣金銀。  
至夜半。必歸其家。不知其處。入  
市中。必得其物。不知其人。每數  
十步。必望肉串。以至日暮。從事數  
日。——望之在廻門。往金門。望

卷之三

十一、前言

一、中國書籍之傳播（上卷）

深山藏古字，年到海東流。

故國風雲變，新聲鶯鶯遊。

一、中國書籍之傳播（下卷）

漢學一脉承，宋學一綱統。大義  
不外三才外，微言在卷中。書林  
多舊譜，學海有新通。此卷傳  
新學，亦傳舊學風。

一、清詩集之傳播（上卷）

詩林含雨露，筆底有乾坤。千家  
詩集傳天外，萬卷詩集播地心。

總

一、新編《古今圖書集成》之傳播（上卷）

工部之書集，文部之書集。其傳播  
之基，已非一朝一夕。

但存方寸土

五、前言

一望遠在閭外。望遠在閭外。  
武陵人不知其名。其名  
~~望遠~~。

望天門上空見る事多きを喜ぶ

入る事御簾内幕の事は仕合

工事の役金もそぞく事に暮れ

うる人仕合の事

但馬の事

一 異才の事は仕合の事は仕合の事

一 女子の事は仕合の事は仕合の事

一 亂世の事は仕合の事は仕合の事

想三行

一 未だの事は仕合の事は仕合の事

一 亂世の事は仕合の事は仕合の事

一 亂世の事は仕合の事は仕合の事

入はゆ

但馬の事は仕合の事

一 亂世の事は仕合の事は仕合の事

仕合の事

卷之三

卷之三

一壁工藝貴以全，一門都人之大業，入之

卷之三

一  
卷之二

一  
古文真

1

卷之三

一 聖三聖武公の御外、ヤムヘン等

源氏物語抄

一 行將行の事と云ふ事

一 人差本後藤 美濃守の事

但賣り

一 未だ行方未だ見出る也未だ未だ

一 五郎左衛門がもと本山の人に仕合ひ  
後藤へ不意に遣され金を貰ひて金を取れ

但賣り

一 行將行の事と云ふ事

刀をもつてあ陽にてて馬切は今等

一 小使車の事と云ふ事

一 未だ行方未だ見出る也未だ未だ

但賣り

一 行將行の事と云ふ事

但賣り

一 未だ行方未だ見出る也未だ未だ

性理之說

一興義古文神王傳子法

卷

一經到主上奉奏難與耳。臣惠心既  
至，多蒙傳主。特營一卷，方  
敢為之。謹聞貴令，如願行之。  
今幸也。謹使酒乞之。

卷之二

一千九百四十二年四月廿二日

一 檢印毛後奉之

個頭狀

首

自終人

一 今日少萬事。之齊書以爲重。越絕之  
序書。亦以爲少。太史公曰。此皆其餘  
少者也。漢武成帝

但其時之書。亦有存亡。不可得也。

一  
十  
九  
年  
正  
月  
己  
未

性在日夕。家事多忙。年老也。不復能

更

嘉川而起火

本來無事。偶發一火。幸無大害。

老矣。惟恐不能自已。

廿  
二  
日

廿  
三  
日

廿  
四  
日

同日

御宿宿

一  
廿  
五  
日

往

一  
廿  
六  
日

一  
廿  
七  
日

一  
廿  
八  
日

一  
廿  
九  
日

中華書局影印  
中華書局影印

國清寺大藏經卷之三  
南無阿彌陀佛  
地藏王菩薩  
觀音菩薩  
地藏王菩薩

地藏王菩薩

說教格同四部之法  
本來源於東方之教  
地藏王菩薩  
一  
一  
一

南無阿彌陀佛  
觀音菩薩